

令和元年度強度行動障害者 生活サポート事業①研修報告

テーマ：『危機介入セラピューティックホールド
～安心・安全な暮らしを目指して～』
講師：社会福祉法人 旭児童ホーム 主任 平本 譲 氏
日時：令和元年 12月9日(月) 15:30～18:00
場所：社会福祉法人かながわ共同会津久井やまゆり園
芹が谷園舎 体育館



県域及び地域の事業所、法人職員の支援力向上を目的として、強度行動障害地域生活サポート事業(神奈川県強度行動障害対策研修)を開催いたしました。

講師として、千木良時代から毎年セラピューティックホールド研修で支えていただいている、社会福祉法人旭児童ホーム主任平本譲氏をお迎えしました。合計64名(園外49名・園内15名)の方が参加され、とても有意義な研修となりました。

はじめに、ウェルビーイング(すべての人の幸福追求)について話がありました。私たちはどれだけ利用者様の事を知っているだろうかという投げかけがありました。

今私たちが、関わっている利用者様の背景をどれだけ理解しているのか、利用者様の生い立ちなどを理解して初めて支援計画書を作成して支援を行うことが大切だと説明していただきました。

いま私たちの役割として利用者様のことを大切に、居心地の良い場を作る。安心・安全・安定した生活を送れる場を作るということ。

支援計画書を作成するにあたり利用者様一人ひとりに寄り添った内容を明記していくこと。問題⇒支援⇒軽減・解決型の支援計画書から利用者様のストレングス、利用者様がワクワクすることが多く描かれた支援計画書を作成することは、その利用者様の支援を行う支援者もワクワクして良い支援が出来るのではないかと、そんな素敵な話を聞いて心が躍りました。また、支援に必要なことはしっかりと支援計画書や確認書に記しご家族、保護者に確認・承諾を得ることで支援としての幅を狭めることなく支援を行える。

また、パニック時の最終的な方法としてセラピューティックホールドについて説明がありました。必ず1人では対応しないこと。懲罰的に用いてはならないことについて説明後、実践を行いました。参加者の皆様には貴重な体験だったようで会場は大いに盛り上がり質問も多く上がっていました。

研修を通じて危機介入の方法を学ぶことでお互いの身を守ること、利用者様のストレングスを見る多方面で見ること。一人ひとりの利用者様にとって安心・安全・安定した暮らしに繋がられるように、背中を押していただいたような温かい内容でした。